

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-04-24

司法省民刑第二〇八号

(発行年 / Year)

1910

司注有紙第二〇八號

貴族院送付民法第二百七十八條修正ノ請願書内閣ヨリ轉送相成候間為御冬考列紙寫貳通及同送候也

明治三十三年二月二十日

司法大臣 清浦奎吾 印

法典調査會總裁 佐野 有 明 殿

内閣

民法第百七十八條修正ノ儀請願

明治二十九年法律第八十九號民法第二編第五章第百七十八條ヲ以テ

永小作權ノ存續期間ハ二十年以上五十年以下トス差亡五十年ヨリ長キ期間ヲ以テ永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ五十年ニ短縮ス

ト所規定相成程處右所制定ノ理由ハ差亡永小作權ヲ永久無期ナラシムルトキハ事實上小作人ニ殆ント土地ノ所有權ヲ喪フルニ等シク隨テ外國人ニ土地所有權ヲ許與セストノ締盟條約ノ精神ニ背反スル結果ヲ生ス

法典編查會

ルニ至ルヘシトノ所主旨ニ有テ候趣然ルニ當郡伏見屋新田全外新田ノ如キハ別紙理由書ニ詳述セル如ク特種ノ理由ニ依リテ小作權ヲ得而シテ因襲ノ久シキ終ニ古來ヨリノ慣習トナリシコトハ當年ノ判決例ニ徴スルニ明白ナル事實ニ有テ然ルヲ今一郭ニシテ此ノ慣習ヲ打破シ永小作權ノ存續期間ヲ二十年以上五十年以下ト制限セラルルトキハ之ヲ箇人ノ上ヨリスレハ既得權ヲ侵害セラシ唯一ノ農業資本ヲ奪去ラルルニ等シク之ヲ國家ノ上ヨリスレハ其土地ノ保護改良ノ念ヲ薄カラシメ漸テ追テ農業事ノ改良登達ヲ阻礙スルニ至ルハクト存続期間何卒特

別ノ所詮議ヲ以テ民性第二百七十八條中ハ
本條ノ規定ニ照リタル慣習アルモノハ日
本臣民ニ限り特ニ其慣習ニ從フ

トノ陸外例ヲ追加セラレ以テ既得ノ權利ヲ
侵害セサル様御修正被成下度別紙理由書相
添此段奉請願也

明治三十二年 月 日

愛知縣三河國碧海郡鷲塚村

四百九十二番手平民衆

林口小太郎始ノ四百四名

別紙理由書

本郡伏見屋新田今外新田ハ今ヲ距ルニト宜

法典編纂會

ニ二百三十餘年前即チ寛文六年中山城國紀
伊郡伏見ノ米穀高伏見屋事三宅又兵衛ナル
者三河國地方ニ往復シテ高業ヲ營シ居リシ
カ偶々三河國碧海郡矢吹川近傍海邊ニ於テ潮
水淺ノ間墾ヲ爲スニ最モ適當ナル地所アル
ヲ発見シ凡ソ百七十餘町歩ノ田畑ヲ新開ス
ハ干場所ヲ選定シテ潮除堤防ヲ築キ近傍小
作人ヲ奨励シ田畑ト爲サシムルニ大程ノ區
別ヲ立テ其勞ニ依テ遂ニ開墾ノ目的ヲ達シ
三宅又兵衛ノ家跡ヲ該開墾地ノ總録ト爲シ
伏見屋新田ト名ケ爾末正徳元年迄四十五年
間三宅又兵衛及其相續人ニ於テ之ヲ所有シ
正徳元年中片山甚五郎片山八左衛門加藤四

即本衛門ノ三名一膏腹シ片山甚五郎外二名
ハ享保五年近十ヶ年間所有シ使ニシテ太田
郎兵衛十九者ハ膏腹シ太田郎等ハ享保十年
近六ヶ年間所有セシモ享保七年洪水ノ爲メ
潮障堤坊破壊シ以來兩三年引續キ激浪甚シ
ク漸々堤防内ノ田畑ニ被害ヲ及ボスニ至リ
レモ太田郎等資力之ヲ復旧支持スルニ堪ヘ
ザリシヲ以テ享保十年守之ヲ領主ハ上地セ
リ故ニ當時ノ御代官小林又左衛門ハ御勘定
所ヘ伺ノ上入札拵ニ付セラレタルニ三河國
碧海郡大濱村名主十田甚兵衛最高札ヲ以テ
拵下ヲ使ケ爾來寬延四年迄二十六年間之シ
テ所有シ寬延四年中市古七郎手箱垣藤次郎

法曲雜考會

ノ兩名一膏腹シ此兩名ハ或ハ數十年或ハ百
年餘上テ所有シ漸次現今ノ地主ハ膏腹シタ
ルモノニシテ閑地以來寬ニ二百三十餘年ノ
久シキ屢々所有主ヲ輾轉移變シタルモノト作
ノ權利ハ我々ノ祖先ヨリ連綿トシテ常ニ絶
エルコトナク其間屢々堤防破壊ノ爲メ田畑
ニ非常ノ損害ヲ被リ膏腹ニ收獲ヲ皆無ナラシ
ムルノミナラス往々土地ノ形跡ヲ失フニ至
リシモノト作人等自ラ膏テ費用ト勞カトラ産
子テ之ヲ產狀ニ復シ瘠地ヲ復シテ良田ト爲
スニ努メ來リシヲ以テ現今ニ至ル明治十五年
中現今ノ所有者等カ小作人等ヲ相手取り本
地ニ對シ控未增加請示ノ訴訟ヲ提起シタル

場合ノ如キモ大審院ニ於テ明治十五年十月廿七日(前案)本訴ノ小作地タルヤ永年小作ニシテ權ニニ旋米改正スルヲ得ヘカラス云々(後案)トノ判決ヲ異ヘラレ地テ其既得ノ權利タルヲ保證セラレタル如キ好箇ノ例証モ有之候次第ニ付之等特種ノ事情ニ由リテ古來ヨリノ慣習ヲ馴致シタルモノハ又タ特種ノ除外例ヲ規定セラレルノ當知ナルヘキヲ信シ乃テ本請願ヲ提出致シタル所以ニ御座候也

民法第二百七十八條修正之儀請願

明治二十九年法律第八十九號民法第二編第

五章第二百七十八條ヲ以テ

永小作權ノ存續期間ハ二十年以上五十年

以下トス差シ五十年ヨリ長ク期間ヲ以テ

永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之

ヲ五十年ニ短縮ス

ト即規定稍成條處右所制定ノ理由ハ差シ永

小作權ヲ永久無期ナラシムルトキハ事實上

小作人ニ於ント土地ノ所有權ヲ喪フルニ等

シク隨テ外國人ニ土地所有權ヲ許與セスト

ノ締盟條約ノ精神ニ背反スル結果ヲ生ズル

ニ至ルハ此トノ旨旨ニ有之候趣然ルニ當

却前滿新田及ニ平七新田ノ如キハ別紙理由

書ニ詳述セル如ク特種ノ理由ニ依リテ小作

權ヲ得而シテ因襲ノ久シキ終ニ古來ヨリノ

増習トナリシコトハ當年ノ判決例ニ徴スル

モ明白ナル事實ニ有之然ルヲ今一朝ニシテ

此ノ増習ヲ打破シ永小作權ノ存續期間ヲ二

十年以上五十年以下ト制限セラレルトキハ

之ヲ箇人ノ上ヨリスレハ既得權ヲ侵害セラ

レ唯一ノ農業資本ヲ奪去ラルルニ等シク之

ヲ國家ノ上ヨリスレハ其土地ノ保護改良ノ

念ヲ薄カラシメ漸ク進テテ農事ノ改良發達

ヲ阻礙スルニ至ルハクト存候間何卒特別ノ

法典部會

御詮議ヲ以テ民法第百七十八條中ハ
本條ノ規定ニ照リタル慣習アリモノハ日
本臣民ニ限リ特ニ其慣習ニ從フ
トノ除外例ヲ追加セラレ以テ既得ノ權利ヲ
侵害セザル插御修正被成下度別紙理由書相
添此段奉請願候也

明治三十二年 月 日

愛知縣三河國碧松郡志貴崎村

七百九十七番戸

平民衆

伴七郎 去号 六一

始ノ四百八拾五名

法典調査會

別紙

理由書

本郡前濱新田及ヒ千七新田ハ文政十年中綫
々小人ノ祖先力始メテ開墾シタルモノニ
シテ當時資金ヲ出シテ土工費等ニ充テタル
者ヲ以テ地主ヲ爲シ勞力ヲ費シテ開墾ノ勞
ニ當リシ者ヲ以テ小人ト爲シ小人ハ永
代小人稱ヲ得ルト同時ニ檢力毛羊ハ其土地
ノ所有權ヲ得タルニ等シキ習慣ヲ作り以テ
今日マテ渝ルコトナキハ現ニ去ル明治十四
年中現所有者カ小人ニ對シ抗額改正毛旋
証券請求ノ訴訟ヲ提起シタル場合ノ如キ東
京上等裁判所ニ於テ明治十四年十二月五日

(前畧) 尋常小作者ト異ナルナリトスル証據ハ第一其一新証書ニ散見スル土工費及ニ肥瓶ラ地主ノ資全ラ以テ之ヲ支拂ヒ之ヲ配當シタルモ原告即ケ小作人等ニ於テ曾テ踏費ヲ分投シタル証跡ナク又閩懇以來數回旋米ヲ増加シタルヲ以テ親ルモ原告ハ尋常小作者タル句諍ナリ故ニ近郊ノ隣習小作費實ヲ尋ラ執ラ以テ永小作ノ証徴ト爲スヲ得ストニ々シタリ依テ之ヲ審擇スルニ被告一号書中ノ生費ト從前控額改正ノ事項ヲ以テ一概ニ原告ヲ指シテ普通ノ小作人ト異ルナレト謂フヲ得ヤルヘシ其所以ハ誇地ハ文改十年地概シ取懸リ麥蒔付タルトモ田方植付魚之

法典編查會

ハ該証初項ニ明記アリ左スレハ歲霜ヲ墜不地味変換ノ度ニ隨ヒ田方畑方ノ取上ケヲ定ムルハ是新墾地ニ施ス順序ニシテ依ノヨリ墾田ヲ小作ニ卸シ付タルモノト差別アルハ當然ナリ原告ハ新墾地ヲ試作培養シ多年ノ内地味ノ熟度ニ應ヒ三年月五年月ニ入額ヲ増加シタルモ曾テ小作年季ヲ定メ置カザリシナリ之ヲ以テ視レハ其依ノ墾墾費ヲ分投シタル証跡ナシトモ小作人相當ノ義務ヲ盡シ然シテ竟ニ墾田ニ趣カシメタルハ小作人誤フテカアルモノト爲サザルヲ得又(中畧) 夫レ原告一号以下ノ數通ハ小作權費實ノ証書アラズヤ然レテ被告ハ此費實ヲ認メ

タリ即々答書第三條ニ「小作ヲ賣買スルハ云々我近郷皆然リトアリ」柳毛地主ニシテ小作推テ賣買シ又小作人等カ相對問ニ爲メ讓受ラ度外ニ措ケカ如キ特別ノ理由アルニ非ケレハ斯ノ如キ例外ノ自由ヲ得ヘキモノニアラズ（中畧）右ノ理由ナルヲ以テ原告ヲ永小作ニアラストスル被告ノ旨意ハ相違タカレ事トノ判決ヲ疑ヘラレ以テ其既得ノ權利タルヲ任證セラレタル如キ好箇ノ例証モ有セ能ハ第ニ付此等特殊ノ事情ニ由リテ古來ヨリノ慣習ヲ剛致シタルモノハ又々特殊ノ例外例ヲ規定セラルルノ當然ナルヘキヲ信シ乃今本請願ヲ提出シタル所以ニ兩座位也